

2019年3月期 第2四半期 決算説明会 Q&A サマリー

Q: 第1四半期から第2四半期にかけて下がった機器セグメント利益を、下期予想55億円までどのように回復させるのか。また、来期の機器セグメント利益は前期並みの水準に戻すことができるのか。

A: 上期に膨らんだ経費の削減を進め、下期予想55億円に回復させてまいります。また、来期の市場環境はまだ不確定ではございますが、各経費のコントロールを続け、来期以降なるべく早いタイミングで機器の従来の利益水準に戻していきたいと考えております。

Q: 景況や需給環境への変動が大きくなっているが、なぜ大幅な変化となったのか。生産能力増強による費用増加と市況とのタイミングが悪かったのか。

A: 今回は生産能力増強のために様々な策を打っている最中に需要が減少したためです。今年6月時点ではさらに需要が増加するという見通しでしたが、第2四半期に入り、半導体設備投資が減少、且つ、貿易摩擦問題により中国の設備投資にもブレーキがかかり、大きな影響を受けました。

Q: 機器の通期業績予想の修正で、利益の修正割合が売上高より大きいのはなぜか。

A: 機器の売上は第1四半期に比べ第2四半期が減少しておりますが、経費の減少が売上の減少に追いついていないため、経費増が利益減につながっています。このような上期の実態を勘案して下期・通期予想を修正したためです。

Q: 貿易摩擦の影響で海外の顧客にどのような影響があるのか。

A: 今後中国がどうなるのかについてはわかりづらいです。米中の貿易摩擦や政府の助成策など様々な要素があります。そういったことも含めて中国市場の変化に注目してまいります。

Q: 半導体設備投資遅延の現時点における見直し

A: メモリの設備投資計画が遅れています。遅れた設備投資がいつから動くのか現時点では見えておりません。

Q: 自動車の販売台数はグローバルで縮小してきていますが、自動車と工作機がどのような動きをしているか、潮目が変わってきているのか。

A: 自動車は新しいモデルの発売にあわせ、制作される製造ラインで空気圧機器等が使用されます。第1四半期は国内で自動車メーカーの新しいモデルの設備に使用される機器を受注しました。第2四半期はその物件が一段落したため若干受注が下がっています。工作機は中国向け含めた生産台数が今まで増加しておりましたが、少し落ちてきていますので生産台数の変化に注視しております。